

## J-STAGE の移行状況の報告と利用方法の解説

千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科 田隈 広紀

### 1. 当記事の目的

前回 2 号の掲載記事「国際 P2M 学会誌の電子化について」にて、当学会が発刊する「国際 P2M 学会誌（有審査論文が掲載）」の電子化の経緯とそのメリットを解説致しました<sup>[1]</sup>。当記事では、この電子化に関わるデータ移行の進捗状況の報告と、J-STAGE の利用方法の解説を記載します。

### 2. J-STAGE へのデータ移行の進捗状況

本件を報告する前提として、やや複雑ですがまず学会誌（有審査論文を掲載する雑誌）の書誌名変更の履歴を概説致します。当学会の学会誌は、実は 2 回の書誌名変更を行っています。創刊号は「国際 P2M 学会記念論文集」、Vol. 1, No. 1 から Vol. 5, No. 2 までは「国際プロジェクト・プログラムマネジメント学会誌」、そして学会名変更を経て Vol. 6, No. 1 からは「国際 P2M 学会誌」というタイトルで発刊しています。本当は一つのサイトからすべての論文を公開できれば良かったのですが、J-STAGE をはじめとする電子ジャーナルシステムでは、異なるタイトルの書誌を同一サイトから公開できないため、上記 3 つの書誌用のサイトを構築して相互リンクを張り、それぞれに CiNii からデータ移行を行う形となりました。一方で「研究発表大会予稿集」はタイトル変更していないため、予稿集用の J-STAGE サイトを 1 つ構築し、そちらに CiNii のバックナンバーを全て移行しました。

さてこのような経緯で、学会誌（有審査論文掲載）は 3 つ、予稿集は 1 つの J-STAGE サイトが構築されます。「国際 P2M 学会誌」の前身誌である 2 誌の CiNii からのデータ移行は 2017 年 7 月末に完了予定、それ以外（国際 P2M 学会誌、研究発表大会予稿集）のデータ移行は、すでに完了しております。以上の状況を図 1 に纏めました。これに加え、2018 年末には「P2M マガジン」用の J-STAGE

サイトが構築される予定です。

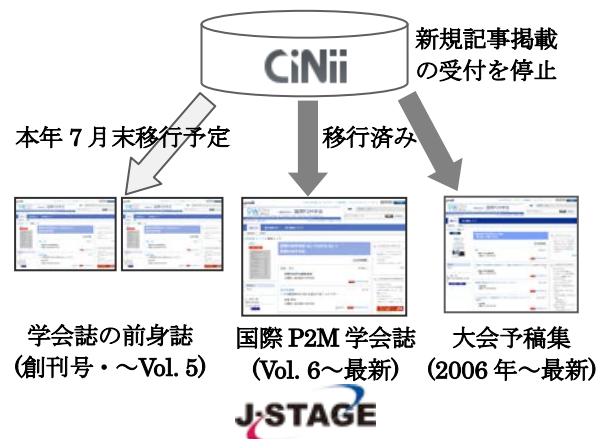


図 1 J-STAGE へのデータ移行の状況

すでに公開されている「国際 P2M 学会誌」と「国際 P2M 学会研究発表大会予稿集」の J-STAGE サイトの URL は下記の通りです。もちろん検索サイト経由でもご覧頂けます。

● 国際 P2M 学会誌（有審査論文カレント誌）<sup>[2]</sup>

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/iappmjour/-char/ja/>

● 国際 P2M 学会研究発表大会予稿集<sup>[3]</sup>

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/iappmproc/-char/ja/>

残りの「国際 P2M 学会記念論文集」「国際プロジェクト・プログラムマネジメント学会誌」「P2M マガジン」の URL も、J-STAGE サイトの準備ができ次第お知らせ致します。

### 3. J-STAGE の利用方法

ここでは「論文執筆のため先行研究を探す」場合の手順を解説致します。なお当学会では現在まで、研究発表大会で投稿された論文が選定・査読を経て学会誌に掲載されています<sup>[4]</sup>。従って論文制作の際は、「国際 P2M 学会誌」と「国際プロジェクト・プログラムマネジメント学会誌（本年 7 月末までは CiNii から検索）」に加え、「研究発表大会予稿集」の最新号から関連記事を探すことをお勧めします。

手順 1：記事の検索エンジンを検討する

J-STAGE 経由で関連記事を検索する方法

は、大まかに下記の2つが挙げられます。

1) 当学会の書誌専用のJ-STAGEサイトの検索機能を用いる

⇒当学会の先行研究に限定し調査可能

2) J-STAGE トップページの検索を用いる

⇒J-STAGE に掲載されているすべての雑誌から調査可能

上記の2つの方法は検索スコープが異なり、用途に合った方法を採用することで、効率的な調査が可能になります。例えば研究領域全体の状況を広く浅く調査する場合はGoogle検索(J-STAGEの記事もヒットします)、その中で雑誌種別や分野を絞った学術記事を調査する場合は上記2)、さらにそこから当学会の先行研究を探す場合は上記1)の方法が適しています。

**手順2：記事を検索する**

上記1) 2) ではJ-STAGE の検索機能を用います。サイトの画面右上に簡易検索機能(図2)があり、さらにその右側に「詳細検索」のリンクがあります。簡易検索では記事のすべての情報、詳細検索(図3)では対象エリアを絞った検索が可能です。入手したい記事の要件が固まっていない場合は簡易検索、固まっている場合は詳細検索を利用すると効率がよいと思われます。J-STAGE サイト内から、記事のタイトル・著者・抄録・キーワード・引用文献(CiNii移行分は除く)が閲覧できます。より詳細な手順が知りたい場合は、サイト内のヘルプメニュー(画面上部)をご参照ください。



図2 J-STAGE サイトの画面<sup>[2]</sup>  
(画面は国際P2M学会誌のJ-STAGE サイト)



図3 J-STAGE の詳細検索の画面

(画面はJ-STAGE トップ画面の詳細検索)

**手順3：記事のPDFをダウンロードする**

記事のPDFをダウンロードする場合、図2の「本文の入手ボタン」をクリックします。当学会の論文・講演資料の場合、公開後半年間は学会共通の購読者ID・パスワードが必要です。このうちパスワードは学会誌・予稿集共通のものを春季研究発表大会の予稿集公開時に会員全員にメール通知します。ダウンロードしたPDFは印刷とテキスト選択は可能ですが、改変はできません。

**4. 終わりに**

前号でも書かせて頂きましたが、J-STAGEでの公開を足掛かりに、当学会の刊行物を国内外の研究者・実務者に知って頂き、著名雑誌から引用や実務へのP2M適用に繋がっていきたいと考えております。今後とも是非当学会の刊行物にご注目頂き、かつ積極的なご投稿をお願い申し上げます。

**参考文献**

[1] 田隈広紀「国際P2M学会誌の電子化について」、P2M マガジン No.2、pp. 2-3、2016

[2] 国際P2M学会「国際P2M学会誌J-STAGEサイト」  
<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/iappmjour-char/ja/>

[3] 国際P2M学会「国際P2M学会研究発表大会予稿集J-STAGEサイト」  
<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/iappmproc-char/ja/>

[4] 国際P2M学会「国際P2M学会論文審査規定」